



テュートリアル課題 帝王切開で生まれた真由ちゃん

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2010
号	B6
発行年	2010-08-11
URL	http://hdl.handle.net/10470/30698

2010 年度 Block. 6

課 題 No. 2

課題名： 帝王切開で生まれた真由ちゃん

課題作成者： 母子総合医療センター

内 山 温

シート1

吉田孝子さんの第2子の分娩予定日は3月9日です。妊娠経過は順調でしたが、骨盤位であったため、妊娠38週0日に予定帝王切開で出生しました。出生体重2900gの女の子でした。出生時から元気に泣いていましたが中心性チアノーゼが続くため、フリーフローの酸素投与下で、新生児集中治療室（Neonatal intensive care unit: NICU）に入院となりました。

帝王切開術後に、孝子さんはわが子がNICUに入院したと聞いて不安でいっぱいになりました。

シート2

吉田さんの赤ちゃんは、NICUに入院後、経鼻酸素投与による治療が開始されました。経鼻酸素療法によって中心性チアノーゼは改善しました。体温：37.2℃、心拍数：160回/分、呼吸数90回/分、血圧60/30 mmHg、経皮的酸素飽和度：98%でした。

新生児科の田中先生は、入院時検査を施行しました。その後、点滴を確保して輸液治療を併用しました。

シート3

主治医の田中先生は、赤ちゃんの病状について、父親の吉田真二さんに説明しました。病状説明を聞いた真二さんは少し安心しました。

日齢1に吉田さんの赤ちゃんの呼吸数は40回/分と改善したため、田中先生は経鼻酸素投与を中止しました。呼吸状態を確認するため、田中先生が胸部聴診をしたところ、胸骨左縁第2肋間に最強点を持つ連続性雑音を聴取しました。田中先生は直ちに検査を施行しました。

シート4

日齢2には心雑音は消失しました。田中先生は、本日も心臓超音波検査を行いました。吉田さんの赤ちゃんは、経口哺乳量も順調に進みました。同日、ラジアントウォーマーからコットに移床しました。帝王切開術後の孝子さんは車いすに乗って、本日初めてわが子に面会しました。孝子さんは見慣れない保育器や医療機器などに圧倒されましたが、田中先生に赤ちゃんの病状説明をしてもらい、安心しました。

日齢4に点滴を中止出来ました。同日、孝子さんが面会に来た時に、赤ちゃんの皮膚色が昨日に比べて黄色くなっていることが気になりました。検査から戻って来た田中先生は、赤ちゃんの黄疸の値は昨日より高値ですが、治療を開始する程高値ではないのでこのまま経過をみましようと説明しました。

シート5

田中先生は、日齢5に新生児マススクリーニング検査とともに血清総ビリルビン検査を施行しました。血清総ビリルビン値は自然に低下しました。吉田さん夫妻は赤ちゃんの名前を真由と名付けました。

田中先生は、真由ちゃんは明日から、NICUを出て、孝子さんと一緒に母児同室して良い旨を説明しました。孝子さんは明日からわが子と一緒に同室できると非常に嬉しく思いました。

日齢6から母児同室し、日齢8に真由ちゃんは孝子さんと一緒に退院となりました。